

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	緊急出動中の消防車両が停車時に電柱と接触した事案
3. 体験した事例の中心的要素	救急支援のため緊急出動中、消防車を左に寄せ停車させようとした際、電柱と消防車左ディー上部を接触させたもの。事故発生時は、接触到り、さらに電柱を確認すると、電柱にも損傷が認められた。
4. 体験した事例の原因・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間で周囲が見えにくかった。 ・停車場所に気を取られ道路等、現場の状況把握が出来ていなかった。また、電柱が歩道から車道側に若干飛び出していることに気付かず、電柱との距離が近かった。 ・交通量が多い国道のため、停車場所を左に寄せようとしすぎた。 ・緊急出動で最先着小隊であるため少しでも早く活動をしなればというあせりが小隊全員にあった。 ・確認呼称が確実にできていなかった。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。(延焼の広がりが思ったより早かった等)
------------------	---------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和5年7月14日 午後8時頃
2. 発生した当時の天候	わからない
3. 発生した活動現場	屋外:国道上
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	交通事故
7. 事例体験時の活動	救急現場到着
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他:車両停車時
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	これまでに1, 2回程度体験している。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[38]歳、勤続年数[16]年、現場経験年数[16]年、階級[消防士長] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	緊急出動中の車両停車時に消防車を電柱に接触させた。	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
- ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

確実に現場到着しなければ早く活動することはできないため、停車するまでは小隊全員で周囲を確認し、確認呼称をして交通事故防止に努めるという意識を徹底する。

○装備・資機材の対策について

機関員は車両の特性をしっかりと理解し、道路の傾斜による車両の傾きなどを考慮し運転する。

○活動環境の対策について

暗く見えにくい場所では作業灯を使用する。または、誘導員を立てる。
車が停車するまでは、隊員全員で障害物等の確認をし声掛けを行う。

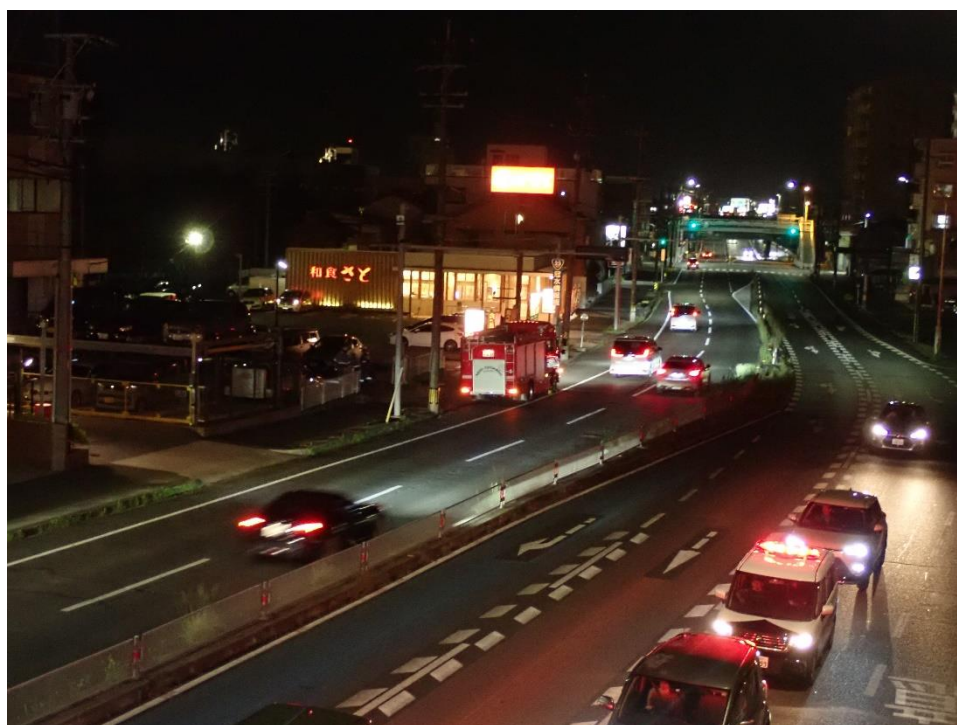
○指揮・情報伝達の対策について

停車場所について、機関員に任せきりではなく小隊長を中心にしっかりと指示する。

現場状況図



(事故現場南西側から撮影)



(事故現場北東側、交差点上から撮影)

破損状況写真
当方



(タンク車左側ボディ上部損傷)

相手方



(電柱)